

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

ミッション・ビジョン

半導体の自動検査技術で人々の豊かな生活と幸せ、社会の発展に貢献し、ディスプレイと周辺デバイス、イメージセンサーの自動検査におけるトップリーダーを目指す

経常利益率
20%以上

配当性向
30%

ディスプレイ・ドライ
7.3%CAGR

② 中長期の経営戦略

1. 検査装置の市場展開強化

WTS-577SR、WTS-577SX、WTS-9000、WTS-588Dを投入し、ディスプレイ・デバイス検査装置市場シェア拡大を目指す

2. 製造体制の強化

ウインテスト武漢でのPCボード製造強化、装置組立増産、品質管理強化により業績向上を目指す

3. 地域別営業強化

メインマーケットを日本から中国、台湾にシフト。PMI社との協業、Viccom社との販売加速を推進

4. 新規事業展開

IoTヘルスケア市場、高齢者見守り機能、2024年問題対応製品、環境配慮型洗浄水生成装置の開発・推進

③ 対処すべき課題

① 市場環境の変化への対応

- ・ AI関連投資への偏重で民生・産業向け半導体市場が低迷、2026年以降の市場回復を見込む
- ・ 日本の半導体市場シェアが7%から5%台に低下、国際競争力の維持が課題
- ・ 顧客の設備投資凍結で受注売上が低調、2026年度の黒字化を推進必要

② 既存事業の競争力向上

- ・ 検査装置の高速化・高機能化で次世代半導体対応を加速
- ・ 日本客向け高速・高電圧ロジックオプション開発、2026年出荷予定
- ・ ディスプレイ・ドライバICの市場需要拡大に対応した製品開発強化

③ 財務健全性の確保

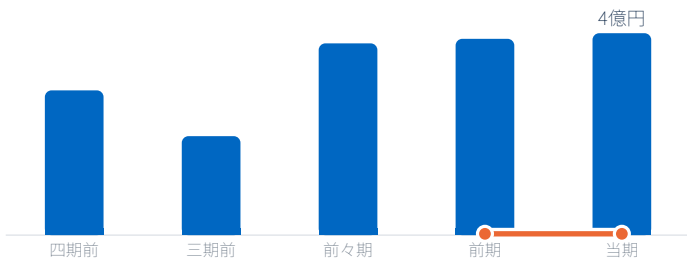
- ・ 棚卸資産599,920千円の評価損を計上し資産評価の健全性を確保
- ・ 2026年以降の原価率低減で収益性向上を図る

面接で使えるポイント

- ・ ディスプレイ・ドライバICは情報端末に欠かせないチップ。今後AMOLED、フォルダブルOLED…
- ・ WTS-9000などの次世代検査装置開発とウインテスト武漢での製造体制強化により…
- ・ 棚卸資産評価損599,920千円計上で短期的打撃を受けつつも…

証券コード 6721

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高

4億円

営業利益率

▲284.0%

財務健康度

13点 / 100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 28.8（当サイト算出の参考指標）

平均年収

527万円

電気機器内 208位/225社

平均年齢

53.0歳

電気機器内 2位/225社

平均勤続

19.0年

電気機器内 39位/225社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: ウインテスト[6721]: 棚卸資産評価損、営業外費用の計上に

